



2016年3月期 上期 決算概要

テルモ株式会社

上席執行役員 IR・広報室担当

北畠 一明

2015年11月5日

決算総括：売上・営業利益ともに二桁伸長

(億円)

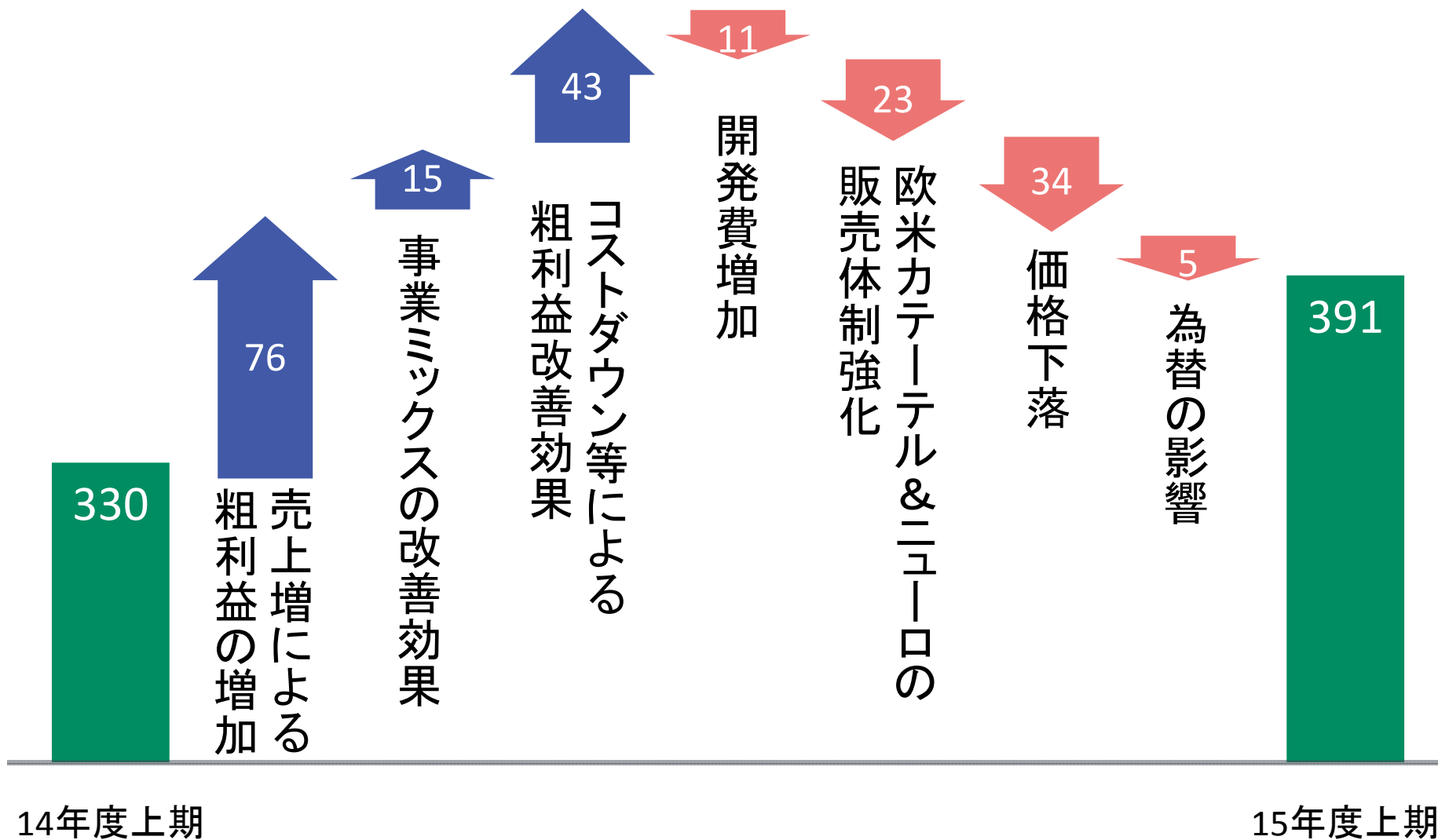
	14年度上期	15年度上期	増減率	為替除く
売上高	2,333	2,592	+11%	+5%
粗利益	1,229 (52.7%)	1,394 (53.8%)	+13%	+8%
一般管理費	763 (32.8%)	844 (32.6%)	+10%	+3%
開発費	136 (5.8%)	159 (6.1%)	+17%	+8%
営業利益	330 (14.1%)	391 (15.1%)	+19%	+20%
(のれん等償却除く)	413 (17.7%)	493 (19.0%)	+19%	+16%
経常利益	340 (14.6%)	358 (13.8%)	+ 5%	
純利益	219 (9.4%)	270 (10.4%)	+23%	

期中平均レート
 US\$ 103円 / 122円
 EUR 139円 / 135円

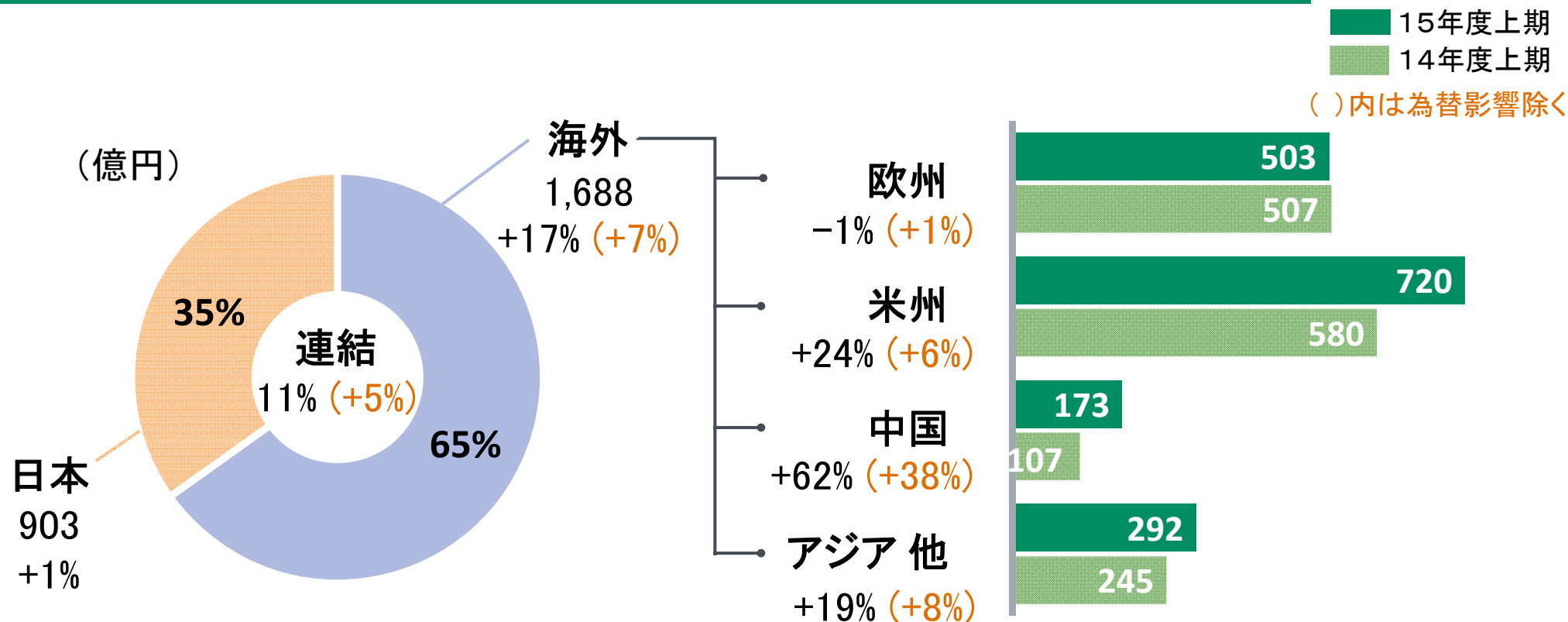
- 売上 : 全カンパニーで好調維持。北米中心に海外カテーテル、ニューロが大きく牽引
- 営業利益 : 売上拡大に伴う粗利益の増加が販管費の増加を上回る
- 経常利益 : 前年同期の為替差益(25億)に対し、今年度は差損(24億)
- 純利益 : 幡ヶ谷(東京都渋谷区)の土地売却。税制改正による法人税負担率の減少

営業利益増減分析

(億円)

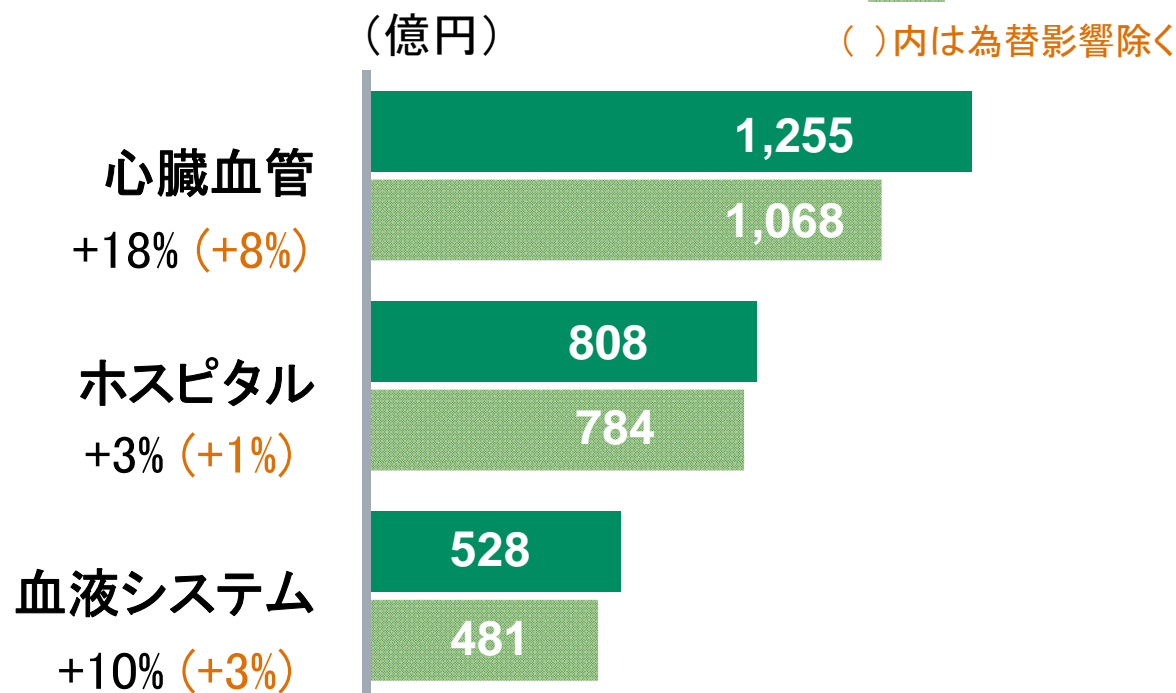
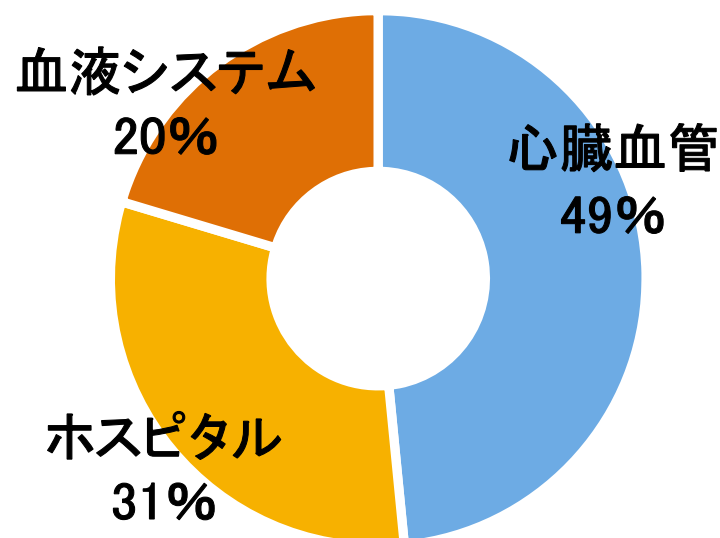


地域別売上高



- 日本 : ホスピタルが全体を牽引し増収達成
- 欧州 : 心臓血管が伸長したものの、ホスピタル合理化、円高ユーロ安の影響受け減収
- 米州 : カテーテルやニューロの大幅伸長。血液の新価格移行遅れ
- 中国 : 昨年度行った商流の見直しが完了

カンパニー別売上高



- 全カンパニーにおいて、為替の影響を除いても増収を維持
- 心臓血管および血液システムにおいて、海外が牽引し二桁伸長

心臓血管カンパニー：海外が牽引し、二桁の増収増益を達成

(億円)

	14年度上期	15年度上期	増減率	為替除く
売上高	1,068	1,255	+18%	+8%
事業利益(率)	215 (20%)	293 (23%)	+36%	+21%

<売上面>

- 北米を中心に海外カテーテルやニューロの売上伸長 + 125億
- 中国での商流の見直し完了。顧客カバー率の拡大 + 53億
- 欧亜で「Ultimaster」(新DES)が順調に拡大。国内でも製造販売承認を取得

<利益面>

- 海外カテーテルおよびニューロの売上拡大による利益増と
ポートフォリオミックスの改善

ホスピタルカンパニー: コスト改善活動により収益性は回復

(億円)

	14年度上期	15年度上期	増減率	為替除く
売上高	784	808	+3%	+1%
事業利益(率)	96 (12%)	117 (15%)	+22%	+25%

<売上面>

- 日本: 腹膜透析や疼痛緩和を中心にD&Dが拡大 + 14億
- 日本: 回転品である基盤医療器やDMの回復 + 7億
- 欧米: ポートフォリオ再編の取り組み - 12億

<利益面>

- 国内外の工場における継続的なコスト改善 + 8億

血液システムカンパニー：新興国、アフェレシス治療が継続伸長

(億円)

	14年度上期	15年度上期	増減率	為替除く
売上高	481	528	+10%	+3%
事業利益(率)	93 (19%)	100 (19%)	+8%	+16%

<売上面>

- アフェレシス治療や細胞処理システムが継続成長 +27億
- 新興国中心に成分採血が伸長 +12億

<利益面>

- 米・血液センターで新価格移行のずれ込み(長期契約による物量増を交渉)
- 米国生産・欧州販売製品での対ドル・ユーロ安によるマイナス影響

Q2 主なトピックス

全社

- 約110億円の自社株買いの実施(株式の持ち合い解消)
- 社員の健康増進に取り組む企業14社で「KENKO企業会」を設立

-
- ヒト(自己)骨格筋由来細胞シート「ハートシート」の国内製造販売承認を取得(9月18日)

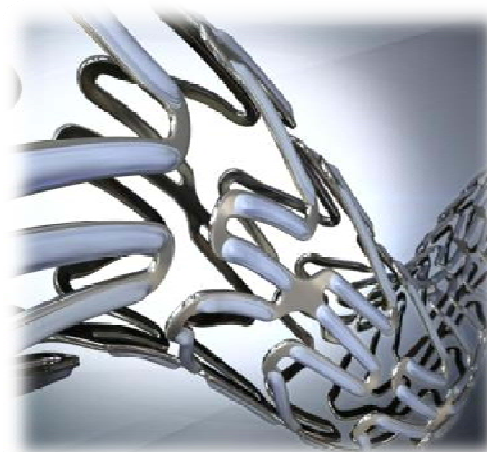
事業

- 薬剤溶出型ステント「Ultimaster」の国内製造販売承認を取得(8月10日)
- カネカ社との共同開発品、末梢血管用PTAバルーンが米国で承認取得
- カテーテル・がん治療分野の蘭ベンチャーへ投資
- 皮内投与型デバイス(薬剤を除く)の国内製造販売承認を取得

15年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域	ローンチ
心臓	DES (Ultimaster)	◎◎ ★	日	Q2承認 10・1発売
	次期血栓吸引 カテーテル		欧・南米・亜	
ペリ フェラル	ステント (Misago)	★	米	Q1
	ステント細径化 (Misago)		欧	
	PTAバルーン (膝上)		欧・米	Q2
	PTAバルーン (膝下)		日	
	塞栓用ビーズ	★	欧	Q1
脳	コイルアシスト・ステント	◎	日	Q1
	液体塞栓剤	★	欧	Q1
	プロテクションデバイス	★	欧	

領域	製品		地域	ローンチ
CV	遠心ポンプ・ディスポ (PCPS用)		日	
血液	自動製剤化システム	★	日	



DES「Ultimaster」
国内製造販売承認
10月1日発売



PTAバルーン「Metacross RX」
カネカ社共同開発品
米国ローンチ

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高

参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率(15年度上期)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	228 (-3%)	1,028(+11%)	325 (+3%)	445(+12%)	135(+40%)	123(+13%)	1,255(+8%)
うちカテーテル※	172 (-5%)	811 (+16%)	261 (+5%)	323(+18%)	128(+42%)	99 (+19%)	983 (+11%)
ホスピタル	620 (+3%)	188 (-6%)	48 (-18%)	42 (-5%)	11 (+25%)	87 (-1%)	808 (+1%)
血液システム	56 (-8%)	472 (+4%)	130 (+4%)	233 (-1%)	27 (+37%)	82 (+12%)	528 (+3%)
合計	903 (+1%)	1,688 (+7%)	503 (+1%)	720 (+6%)	173 (+38%)	292 (+8%)	2,592 (+5%)

※ニューロバスキュラー事業含む
()内は為替影響除く対前年同期伸長率

販管費

(億円)

	14年度 上期	15年度 上期	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	339	382	+43	+13%	
販促費	76	81	+5	+7%	
物流費	53	55	+2	+3%	
償却費	119	140	+21	+18%	
その他	176	186	+10	+5%	
一般管理費計	763 (32.8%)	844 (32.6%)	+81	+10%	+3%
研究開発費	136 (5.8%)	159 (6.1%)	+23	+17%	+8%
販管費合計	899 (38.6%)	1,003 (38.7%)	+104	+11%	+4%

()内は対売上高%

四半期の動き

(億円)

	14年度Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	15年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上高	1,184	1,299	1,263	1,287	1,305
粗利益	623(52.6%)	678(52.2%)	654(51.7%)	690(53.7%)	704(53.9%)
販管費	385(32.5%)	405(31.2%)	424(33.5%)	417(32.5%)	427(32.7%)
開発費	69(5.8%)	74(5.7%)	84(6.7%)	79(6.1%)	80(6.1%)
営業利益	169(14.3%)	199(15.3%)	146(11.5%)	194(15.1%)	197(15.1%)
のれん等償却 除く営業利益	211(17.8%)	245(18.8%)	194(15.3%)	245(19.1%)	248(19.0%)

四半期	US\$	104円	115円	119円	121円	122円
平均レート	EUR	138円	143円	134円	134円	136円

設備投資と研究開発費

(億円)

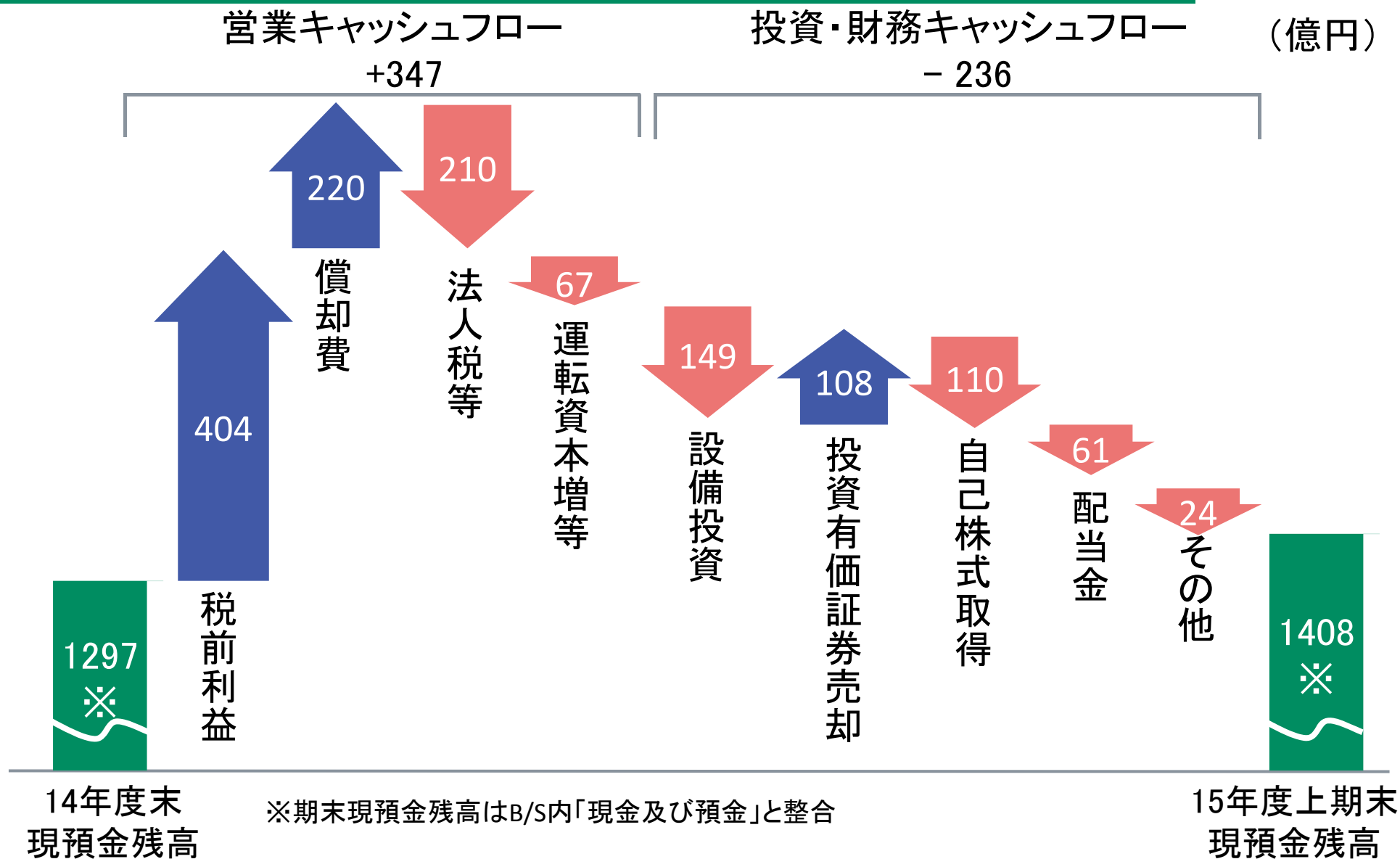
	年度見通し	上期実績	進捗率
設備投資	360	149	41%
償却費※	450	220	49%
研究開発費	350	159	45%

※のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

<設備投資見通し 420億円から360億円に修正>

- 米国南カリフォルニア開発拠点建設 30億円遅れ
建屋設計変更による遅れ。リースによる研究開発施設確保により開発への遅れはない
- テルモ山口設備投資 マイナス20億円
既存設備を有効活用できる新製品導入を優先

キャッシュフロー



為替感応度

(億円)

	US\$	EUR
売上高	18	7
営業利益	1	2

- ドルに関し、北米を中心とした売上拡大により売上感応度は高めに推移
ただし、BCT買収後海外生産比率の上昇により営業利益の円安効果は縮小
- 新興国通貨下落による営業利益減をユーロ安効果で相殺

15年度 上期: 為替変動の影響

上期期中平均レート

	14年度	15年度		
US\$	103円	122円	(+ 19円)	18%円安
EUR	139円	135円	(- 4円)	3%円高
人民元	16.6円	19.5円	(+ 3円)	17%円安

(億円)

	売上高	営業利益		
US\$	+130	- 7	のれん等影響	-15
EUR	- 12	-10		
人民元	+ 29	+10	増売による利益増	+20
			杭州工場、製造原価への影響	-10
他新興国通貨	+ 3	+ 2		
合計	+150	- 5		

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。